



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

五年生

十月 第①週



学習を始める前に

①必ず用意してください

- ・国語のノートと漢字ノート
- ・筆記用具

②注意

- ・大事だと思われるところはノートに書いてください。
- ・このビデオで使っているスライドを印刷したい人は、最後のお知らせを見てください。
- ・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示にしたがってください。
- ・必要があるときは、ビデオを止めた後、もう一度ビデオを見たりしてください。

大造じいさんとガン

椋鳩十 むく はとじゅう

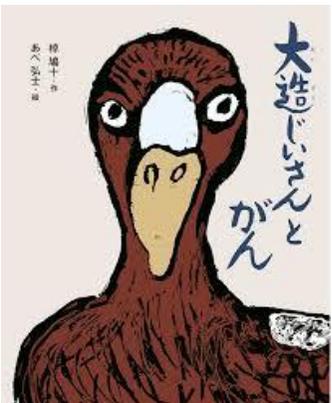
知り合いのかりゆうどにさそわれて、わたしは、イノシシがりに出かけました。イノシシがりの人々は、みな栗野岳くりのだけのふもとの、大造じいさんの家に集まりました。じいさんは、七十二歳さいだというのに、こしひとつ曲がっていない、元気な老かりゆうどでした。そして、かりゆうどのだれもがそうであるように、なかなか話し上手の人でした。血管のふくれたがんじょうな手を、いろりのたき火にかざしながら、それからそれと、愉快ゆなかりの話をしてくれました。その話の中に、今から三十五、六年も前、まだ栗野岳のふもとのぬま地に、ガンがさかんに来たころの、ガンの話もありました。わたしは、その折の話を書きとして、この物語を書いてみました。

さあ、大きな丸太がパチパチと燃え上がり、しようじには自在自在かぎとなべのかけがうつり、すがすがしい木のおいのするけむりの立ちこめている、山家やまがのろばたを想像しながら、この物語をお読みください。

*栗野岳 かごしま 鹿児島北部にある山。

《新しい漢字》

愉快カク



〱 いろり 〱

今年も、残雪は、ガンの群れを率いて、ぬま地にやって来ました。残雪というのは、一羽のガンにつけられた名前です。左右のつばさに一か所ずつ、真つ白な交じり毛をもっていたので、かりゅうどたちからそうよばれていました。

残雪は、このぬま地に集まるガンの頭領らしい、なかなかりこうなやつで、仲間がえを(えき)あさっている間も、油断なく気を配っていて、りようじゅうのとどく所まで、決して人間を寄せつけませんでした。

大造じいさんは、このぬま地をかり場にしていたが、いつごろからか、この残雪が来るようになってから、一羽のガンも手に入れることができなくなったので、いまいまして思っていました。

そこで、残雪がやって来たと知ると、大造じいさんは、今年こそはと、かねて考えておいた特別な方法に取りかかりました。

それは、いつもガンのえをあさる辺り一面にくいを打ちこんで、タニシを付けたウナギつりばりを、たたみ糸で結び付けておくことでした。

じいさんは、一晚ばんじゅうかかって、たくさんのウナギつりばりをしかけておきました。今度は、なんだかうまくいきそうな気がしてなりませんでした。

よく日の昼近く、じいさんはむねをわくわくさせながら、ぬま地に行きました。昨晩つりばりをしかけておいた辺りに、何かバタバタしているものが見えました。

「しめたぞ。」

じいさんはつぶやきながら、夢中でかけつけました。

「ほほう、これはすばらしい。」

じいさんは、思わず子どものように声を上げて喜びました。一羽だけであったが、生きているガンがうまく手に入ったので、じいさんはうれしく思いました。

《新しい漢字 読みかえの漢字》

率ひきいる

頭領リョウ

夢中ムチュウ

大群ダイグン

《特別な読み方をする漢字》

昨日きのう



さかんにばたついたとみえて、辺り一面に羽が飛び散っていました。

ガンの群れは、これに危険を感じてえき場を変えたらしく、付近には一羽も見えませんでした。しかし、大造じいさんは、たかが鳥のことだ、一晩たてば、またわすれてやって来るにちがいないと考えて、昨日よりも、もっとたくさんのつりばりをばらまいておきました。

そのよく日、昨日と同じ時こくに、大造じいさんは出かけていきました。

秋の日は、美しくかがやいていました。

じいさんがぬま地にすがたを現すと、大きな羽音とともに、ガンの大群が飛び立ちました。じいさんは、「はてな。」と首をかしげました。

つりばりをしかけておいた辺りで、確かに、ガンがえをあさった形せきがあるのに、今日は一羽もはりにかかっています。いったい、どうしたというのでしょうか。

気をつけて見ると、つりばりの糸が、みなぴいんと引きのばされています。

ガンは昨日の失敗にこりて、えをすぐには飲みこまないで、まず、くちばしの先にくわえて、ぐうっと引っぱってみてから、いじょう無しとみとめると、初めてのみこんだものらしいのです。

これも、あの残雪が、仲間を指導してやったにちがいありません。「ううむ。」

大造じいさんは、思わず感たんの声をもらしてしまいました。

ガンとかカモとかいう鳥は、鳥類の中で、あまりりこうなほうではないといわれていますが、どうしてなかなか、あの小さい頭の中に、たいしたちえをもっているものだなということ、今さらのように感じたのであります。

《新しい漢字

読みかえの漢字》

指導

鳥類



そのよく年も、残雪は、大群を率いてやって来ました。そして、例によって、ぬま地のうちでも見通しのきく所をえさ場に選んで、えをあさるのでした。

大造じいさんは、夏のうちから心がけて、タニシを五俵ばかり集めておきました。そして、それを、ガンの好みそうな場所にばらまいておきました。どんなあんばいだったかなと、その夜行ってみると、案の定、そこに集まって、さかんに食べた形せきがありました。

そのよく日も、同じ場所に、うんとこさとまいておきました。そのよく日も、そのまたよく日も、同じようなことをしました。

ガンの群れは、思わぬごちそうが四、五日も続いたので、ぬま地のうちでも、そこが、いちばん気に入りの場所となったようでありました。

大造じいさんは、うまくいったので、会心のえみをもらいました。そこで、夜の間、えさ場より少しはなれた所に小さな小屋を作って、その中にもぐりこみました。そして、ねぐらをぬけ出して、このえさ場にやって来るガンの群れを待っているのです。

あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れこんできました。

ぬま地にやって来るガンのすがすがしが、あなたの空に点々と見えだしました。先頭に来るのが、残雪にちがいありません。

《新しい漢字 読みかえの漢字》

ヒヨウ

五俵

ジヨウ

案の定



その群れは、ぐんぐんやって来ます。

「しめたぞ。もう少しのしんぼうだ。あの群れの中に一発ぶちこんで、今年こそは、目にももの見せてくれるぞ。」りょうじゆうをぐつとにぎりしめた大造じいさんは、ほおがびりびりするほど引きしまるのでした。

ところが、残雪は油断なく地上を見下ろしながら、群れを率いてやって来ました。そして、ふと、いつものえさ場に、昨日までなかった小さな小屋をみとめました。

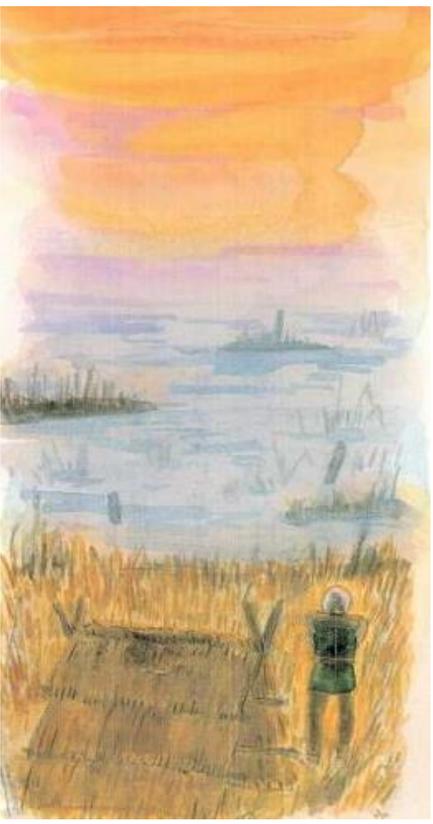
「様子の変わった所には、近づかぬがよいぞ。」かれの本能は、そう感じたらしいのです。ぐつと、急角度に方向を変えると、その広いぬま地のずっと西側のはしに着陸しました。

もう少しでたまのとどきよりに入ってくる、というところで、またしても、残雪のためにしてやられてしまいました。

大造じいさんは、広いぬま地の向こうをじつと見つめたまま、

「ううん。」

と、うなつてしまいました。



今年もまた、ぼつぼつ、例のぬま地にガンが来る季節になりました。大造じいさんは、生きたドジョウを入れたどんぶりをもって、鳥小屋の方に行きました。じいさんが小屋に入ると、一羽のガンが、羽をばたつかせながら、じいさんに飛び付いてきました。

このガンは、二年前、じいさんがつりばりの計略で生けどったものだったのです。今では、すっかりじいさんになついています。ときどき、鳥小屋から運動のため外に出してやるが、ヒュー、ヒュー、ヒューと口笛をふけば、どこにいてもじいさんの所に帰ってきて、そのかた先に止まるほど慣れていました。

大造じいさんは、ガンがどんぶりからえを食べているのを、じつと見つめながら、

「今年は一ひとつ、これを使ってみるかな。」
と、独り言を言いました。

じいさんは、長年の経験で、ガンは、いちばん最初に飛び立ったものの後について飛ぶ、ということを知っていたので、このガンを手に入れたときから、ひとつ、これをおとりに使って、残雪の仲間をとらえてやろうと、考えたのでした。

さて、いよいよ残雪の一群が今年もやって来たと聞いて、大造じいさんは、ぬま地へ出かけていきました。

ガンたちは、昨年じいさんが小屋がけた所から、たまのとどくきよりの三倍もはなれている地点を、えさ場にしているようです。

そこは、夏の出水しゅつすいで大きな水たまりができて、ガンのえが十分にあるらしかったのです。

「うまくいくぞ」

大造じいさんは、青くすんだ空を見上げながら、にっこりしました。

《新しい漢字》

慣れるな

独り言ひと

その夜のうちに、飼い慣らしたガンを例のえさ場に放ち、昨年建てた小屋の中にもぐりこんで、ガンの群れを待つことにしました。

「さあ、いよいよ戦とう開始だ。」

東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。

残雪は、いつものように群れの先頭に立って、美しい朝の空を、真一文字に横切ってやって来ました。

やがて、えさ場に下りると、グワア、グワアというやかましい声で鳴き始めました。大造じいさんのむねは、わくわくしてきました。しばらく目をつぶって、心の落ち着くのを待ちました。そして、冷え冷えするじゆう身をぎゅつとにぎりしめました。

じいさんは目を開きました。

「さあ、今日こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。」

くちびるを二、三回静かにぬらしました。そして、あのおとりを飛び立たせるために口笛をふこうと、くちびるをとんがらせました。と、そのとき、そのすごい羽音とともに、ガンの群れがいちどにバタバタと飛び立ちました。

「どうしたことだ。」

じいさんは、小屋の外にはい出して見ました。

ガンの群れを目がけて、白い雲の辺りから、何か一直線に落ちてきました。

「ハヤブサだ。」

ガンの群れは、残雪に導かれて、実にすばやい動作で、ハヤブサの目をくらしながら飛び去って行きます。

「あつ。」

一羽、飛びおくれたのがいます。

大造じいさんのおとりのガンです。長い間飼い慣らされていたので、野鳥としての本能がにぶっていたのでした。

《新しい漢字 読みかえの漢字》

飼い慣らす

開始

真っ赤

導かれる

ハヤブサは、その一羽を見のがしませんでした。
じいさんは、ピュ、ピュ、ピュと口笛を吹きました。

こんな命がけの場合でも、飼い主のよび声を聞き分けたとみえて、ガンは、こつちに方向を変えました。

ハヤブサは、その道をさえぎって、パーンと一けりけりしました。
ぱっと、白い羽毛うげがあかつきの空に光って散りました。ガンの体はななめにかたむきました。

もう一けりと、ハヤブサがこうげきのしせいをとったとき、さっと、大きながげが空を横切りました、
残雪です。

大造じいさんは、ぐつとじゅうをかたに当て、残雪をねらいました。
が、なんと思ったか、再びじゅうを下ろしてしまいました。

残雪の目には、人間もハヤブサもありませんでした。ただ、救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけでした。

いきなり、敵にぶつかっていきました。そして、あの大きな羽で、力いっぱい相手をなぐりつけました。

不意を打たれて、さすがのハヤブサも、空中でふらふらとよろめきました。が、ハヤブサも、さるものです。さっと体勢を整えると、残雪のむな元に飛び込みました。

ぱっ
ぱっ

羽が、白い花卉のように、すんだ空に飛び散りました。

そのまま、ハヤブサと残雪は、もつれ合って、ぬま地に落ちていきました。

《新しい漢字 読みかえの漢字》

ふたた

再び

テキ

敵

セイ

体勢

ととの

整える

ベジ

花卉



大造じいさんはかけつけました。

二羽の鳥は、なおも地上ではげしく戦っていました。が、ハヤブサは、人間のすがたをみとめると、急に戦いをやめて、よろめきながら飛び去っていききました。

残雪は、むねの辺りをくれないにそめて、ぐったりとしていました。しかし、第二のおそろしい敵が近づいたのを感じると、残りの力をふりしぼって、ぐっと長い首を持ち上げました。そして、じいさんを正面からにらみつけました。

それは、鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようでありました。

大造じいさんが手をのばしても、残雪は、もうじたばたさわぎませんでした、それは、最期ごごの時を感じて、せめて頭領としてのいげんをきず付けまいと努力しているようでもありました。

大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対しているような気がしませんでした。



残雪は大造じいさんのおりの中で、ひと冬をこしました。春になると、そのむねのきずも治り、体力も元のようにになりました。

ある晴れた春の朝でした。
じいさんは、おりのふたをいっばいに開けてやりました。

残雪は、あの長い首をかたむけて、とつ然に広がった世界におどろいたようでありました。が、

バシッ。

快い羽音一番、一直線に空に飛び上がりました。

らんまんときいたスモモの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました。

「おうい、ガンの英ゆうよ。おまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきよなやり方でやつけたかあないぞ。なあ、おい。今年の冬も、仲間を連れてぬま地にやって来いよ。そうして、おれたちは、また堂々と戦おうじゃあないか。」

大造じいさんは、花の下に立って、こう大きな声でガンによびかけました。そうして、残雪が北へ北へと飛び去っていくのを、晴れ晴れとした顔つきで見守っていました。

いつまでも、いつまでも、見守っていました。

《読みかえの漢字》

こころよ
快い

きよ
清らか



知り合いのかりゅうどにさそわれて、わたしは、イノシシがりに出かけました。イノシシがりの人々は、みな栗野岳くりのだけのふもとの、大造じいさんの家に集まりました。じいさんは、七十二歳さいだというのに、こしひとつ曲がっていない、元気な老かりゅうどでした。そして、かりゅうどのだれもがそうであるように、なかなか話し上手の人でした。血管のふくれたがんじゃないような手を、いろりのたき火にかざしながら、それからそれと、愉快ゆなかりの話をしてくれました。その話の中に、今から三十五、六年も前、まだ栗野岳のふもとのぬま地に、ガンがさかんに来たころの、ガンの話もありました。わたしは、その折の話を土台として、この物語を書いてみました。

さあ、大きな丸太がパチパチと燃え上がり、しようじには自在ざいかぎとなべのかげがうつり、すがすがしい木のおいのするけむりの立ちこめている、山家やまがのろばたを想像しながら、この物語をお読みください。

*栗野岳 鹿兒島北部にある山。かごしま

《新しい漢字》

愉快カイ

《言葉の意味》

- ① かりゅうど 鳥・けものを取ることを仕事にしている人。
- ② いろり ゆかを、はこの形に切って火を入れ、だんぼう・すいじに使うところ。
- ③ 自在ざいかぎ いろりの上から下げ、なべやかまをかけてつるす道具。

▼ 登場人物

知り合いのかりゅうど、わたし（椋 鳩十）、イノシシ狩りの人々
大造じいさん

大造じいさんはどんな人ですか。

大造じいさんは（七十二）歳で、元気な（老かりゅうど）です。（話し上手）で、（愉快なかりの話）の話をしてくれました。

今年も、残雪は、ガンの群れを率いて、ぬま地にやって来ました。

残雪というのは、一羽のガンにつけられた名前です。左右のつばさに一か所ずつ、真つ白な交じり毛をもっていたので、かりゆうどたちからそうよばれていました。

残雪は、このぬま地に集まるガンの**頭領**らしい、なかなかりこうなやつで、仲間がえを(えさ)あさっている間も、油断なく気を配っていて、りようじゅうのとどく所まで、決して人間を寄せつけませんでした。

大造じいさんは、このぬま地をかり場に使っていたが、いつごろからか、この残雪が来るようになってから、一羽のガンも手に入れることができなくなつたので、**いま**ましく思っていました。

そこで、残雪がやって来たとなると、大造じいさんは、今年こそはと、**かねて**考えておいた**特別な方法**に取りかかりました。

それは、いつもガンのえを**あさる**辺り一面にくいを打ちこんで、タニシを付けたウナギつりばりを、**たたみ糸**で結び付けておくことでした。じいさんは、一晚ばんじゅうかかって、たくさんのウナギつりばりをしかけておきました。今度は、なんだかうまくいきそうな気がしてなりませんでした。

《新しい漢字》

率ひきいる

頭領リョウ

《言葉の意味》

- ④ 頭領 群れの中のかしら。
- ⑤ いまましく はらだたしく。
- ⑥ かねて 前から。
- ⑦ あさる えさを探し求める。
- ⑧ たたみ糸 たたみをぬうのに使う太い糸。

残雪について説明しましょう。

左右のつばさに一か所ずつ真つ白な交じり毛をもっていた。頭領らしいりこうなガン。

特別な方法とはどんな方法ですか。

いつもガンのえをあさる辺り一面に、くいを打ちこんで、タニシを付けたウナギつりばりを、たたみ糸で結び付けておく方法。



よく日の昼近く、じいさんはむねをわくわくさせながら、ぬま地に行きました。昨晚つりばりをしかけておいた辺りに、何かバタバタしているものが見えました。

「しめたぞ。」

じいさんはつぶやきながら、夢中でかけつけました。

「ほほう、これはすばらしい。」

じいさんは、思わず子どものように声を上げて喜びました。一羽だけであったが、生きているガンがうまく手に入ったので、じいさんはうれしく思いました。

さかんにばたついたとみえて、辺り一面に羽が飛び散っていました。

ガンの群れは、これに危険を感じてえさ場を変えたらしく、付近には一羽も見えませんでした。しかし、大造じいさんは、たかが鳥のことだ、一晩たてば、またわすれてやって来るにちがいないと考えて、昨日よりも、もっとたくさんをつりばりをばらまいておきました。

《新しい漢字

読みかえの漢字》

ム 夢中

グン 大群

きのう 昨日

《言葉の意味》

⑨ たかが せいぜい。わずかに。たった。

大造じいさんは、何をうれしく思ったのですか。

一羽だけだったが、生きているガンをとらえることができたこと。

付近にはガンが一羽も見えなかったのはなぜですか。

ガンは危険を感じてえさ場を変えたから。

そのよく日、昨日と同じ時こくに、大造じいさんは出かけていきました。

秋の日は、美しくかがやいていました。

じいさんがぬま地にすがたを現すと、大きな羽音とともに、ガンの大群が飛び立ちました。じいさんは、「はてな。」と首をかしげました。

つりばりをしかけておいた辺りで、確かに、ガンがえをあさった形せきがあるのに、今日は一羽もはりにかかっています。いったい、どうしたというのでしょうか。

気をつけて見ると、つりばりの糸が、みなぴいんと引きのばされています。

ガンは昨日の失敗にこりて、えをすぐには飲みこまないで、まず、くちばしの先にくわえて、ぐうつと引っぱってみてから、いじょう無しとみとめると、初めてのみこんだものらしいのです。これも、あの残雪が、仲間を指導してやったにちがいありません。

「ううむ。」

大造じいさんは、**思わず感たんの声**をもらしてしまいました。

ガンとかカモとかいう鳥は、鳥類の中で、あまりりこうなほうではないといわれていますが、どうしてなかなか、あの小さい頭の中に、**たいした**ちえをもっているものだなということを、今さらのように感じたのであります。

《新しい漢字

ドウ

読みかえの漢字》

指導

チヨウ

鳥類

《言葉の意味》

⑩ **感たん** 感心してほめること。

⑪ **たいした** たいそうな。すばらしい。



今日は一羽もはりにかかっていたいかなかったのはなぜですか。

ガンは昨日の失敗にこりて、えをすぐには飲みこまないで、くちばしの先にくわえて、引っぱってみてから、飲み込んだから。

大造じいさんが感たんの声ももらしたのはなぜですか。

ガンの小さい頭の中に、**たいした**ちえをもっているものだなと思っ
たから。

そのよく年も、残雪は、大群を率いてやって来ました。そして、例によって、ぬま地のうちでも見通しのきく所をえさ場に選んで、えをあさるのでした。

大造じいさんは、夏のうちから心がけて、タニシを五俵ばかり集めておきました。そして、それを、ガンの好みそうな場所にばらまいておきました。どんな**あんばい**だったかなと、その夜行つてみると、案の定、そこに集まって、さかんに食べた形せきがありました。

そのよく日も、同じ場所に、うんとこさとまいておきました。そのよく日も、そのまたよく日も、同じようなことをしました。

ガンの群れは、思わぬごちそうが四、五日も続いたので、ぬま地のうちでも、そこが、いちばん気に入りの場所となつたようでありました。

大造じいさんは、うまくいったので、**会心**のえみをもらしました。そこで、夜の間に、えさ場より少しはなれた所に小さな小屋を作つて、その中にもぐりこみました。そして、**ねぐら**をぬけ出して、このえさ場にやって来るガンの群れを待っているのです。

あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れこんできました。ぬま地にやって来るガンのすがたが、かなたの空に点々と見えだしました。先頭に来るのが、残雪にちがいありません。

その群れは、ぐんぐんやって来ます。

《新しい漢字 読みかえの漢字》

五俵 ヒヨウ

案の定 ジヨウ

《言葉の意味》

⑫ **あんばい** ものごとの具合。

⑬ **会心** 満足すること。気に入ること。

⑭ **ねぐら** 鳥の寝るところ。



大造じいさんは、タニシを何に使うために集めましたか。

ガンの好みそうな場所にばらまくため。

「しめたぞ。もう少しのしんぼうだ。あの群れの中に一発ぶちこんで、今年こそは、**目にも物を見せて**くれるぞ。」りょうじゅうをぐつとにぎりしめた大造じいさんは、ほおがびりびりするほど**引きしまる**のでした。ところが、残雪は**油断**なく地上を見下ろしながら、群れを率いてやって来ました。そして、ふと、いつものえさ場に、昨日までなかった小さな小屋をみとめました。

「様子の変わった所には、近づかぬがよいぞ。」かれの本能は、そう感じたらしいのです。ぐつと、急角度に方向を変えると、その広いぬま地のずつと西側のはしに着陸しました。

もう少しでたまのとどきよりに入ってくる、というところで、またしても、残雪のためにしてやられてしまいました。

大造じいさんは、広いぬま地の向こうをじつと見つめたまま、

「ううん。」

と、うなつてしまいました。



《言葉の意味》

⑭ **目にも物を見せる** ひどい目にあわせて、思い知らせる。

⑮ **引きしまる** きんちようする。

⑯ **油断** 気をゆるめること。注意しないこと。

大造じいさんは、りょうじゅうをぐつとにぎりしめた理由はなんですか。

群れの中に一発ぶちこんで、今年こそは**目にも物を見せて**やろうと思つたから。

残雪の本能は何を感じましたか。

いつものえさ場に、昨日までなかった小屋をみとめ、様子が変わった所には近づかない方がいい。

今年もまた、ぼつぼつ、例のぬま地にガンが来る季節になりました。大造じいさんは、生きたドジョウを入れたどんぶりをもって、鳥小屋の方に行きました。じいさんが小屋に入ると、一羽のガンが、羽をばたつかせながら、じいさんに飛び付いてきました。

このガンは、二年前、じいさんがつりばりの計略で生けどったものだったのです。今では、すっかりじいさんになついています。ときどき、鳥小屋から運動のため外に出してやるが、ヒュー、ヒュー、ヒューと口笛をふけば、どこにいてもじいさんの所に帰ってきて、そのかた先に止まるほど慣れていました。

大造じいさんは、ガンがどんぶりからえを食べているのを、じつと見つめながら、
「今年は一とつ、これを使ってみるかな。」
と、独り言を言いました。

じいさんは、長年の経験で、ガンは、いちばん最初に飛び立ったものの後について飛ぶ、ということを知っていたので、このガンを手に入れたときから、ひとつ、これをおとりに使って、残雪の仲間をとらえてやろうと、考えたのでした。

さて、いよいよ残雪の一群が今年もやって来たと聞いて、大造じいさんは、ぬま地へ出かけていきました。

ガンたちは、昨年じいさんが小屋がけた所から、たまのとどくきよりの三倍もはなれている地点を、えさ場にしてしているようでした。

そこは、夏の出水しゅつすいで大きな水たまりができて、ガンのえが十分にあるらしかつたのです。

「うまくいくぞ」

大造じいさんは、青くすんだ空を見上げながら、にっこりとしました。

《新しい漢字》

慣れる

独り言

《言葉の意味》

⑰ 計略 はかりごと。相手をだますわな。

⑱ おとり 鳥などをさそいよせるために使う、なかまの鳥。

小屋にいるガンはどんなガンですか。

二年前、じいさんがつりばりの計略で生けどったもの。

その夜のうちに、飼い慣らしたガンを例のえさ場に放ち、昨年建てた小屋の中にもぐりこんで、ガンの群れを待つことにしました。

「さあ、いよいよ戦とう開始だ。」

東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。

残雪は、いつものように群れの先頭に立って、美しい朝の空を、真一文字に横切ってやって来ました。

やがて、えさ場に下りると、グワア、グワアというやかましい声で鳴き始めました。大造じいさんのむねは、わくわくしてきました。しばらく目をつぶって、心の落ち着くのを待ちました。そして、冷え冷えするじゅう身をぎゅつとにぎりしめました。

じいさんは目を開きました。

「さあ、今日こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。」

くちびるを二、三回静かにぬらしました。そして、あのおとりを飛び立たせるために口笛をふこうと、くちびるをとんがらせました。と、そのとき、ものすごい羽音とともに、ガンの群れがいちどにバタバタと飛び立ちました。

「どうしたことだ。」

じいさんは、小屋の外にはい出してみました。

ガンの群れを目がけて、白い雲の辺りから、何か一直線に落ちてきました。

「ハヤブサだ。」

ガンの群れは、残雪に導かれて、実にすばやい動作で、ハヤブサの目をくらしながら飛び去って行きます。

「あつ。」

「羽、飛びおくれたのがいます。」

大造じいさんのおとりのガンです。長い間飼い慣らされていたので、野鳥としての本能がにぶっていたのでした。

《新しい漢字 読みかえの漢字》

飼^かい慣^らす

開^シ始

真^まっ赤^か

導^{みち}かれる

《言葉の意味》

①9 ひとあわふかせる 人をおどろかせて、あわてさせる。

②0 くらます 人にわからないように、ごまかす。

②1 本能 人や動物が生まれたときから持っている、働き・性質。

飛びおくれたのはどのガンですか。大造じいさんのおとりのガン。

ハヤブサは、その一羽を見のがしませんでした。じいさんは、ピユ、ピユ、ピユと口笛を吹きました。

こんな命がけの場合でも、飼い主のよび声を聞き分けたとみえて、ガンは、こつちに方向を変えました。

ハヤブサは、その道をさえぎって、パーンと一けりけりしました。

ぱつと、白い羽毛があかつきの空に光って散りました。ガンの体はななめにかたむきました。

もう一けりと、ハヤブサがこうげきのしせいをとったとき、さつと、大きなかげが空を横切りました、

残雪です。

大造じいさんは、ぐつとじゆうをかたに当て、残雪をねらいました。が、なんと思ったか、再びじゆうを下ろしてしまいました。

残雪の目には、人間もハヤブサもありませんでした。ただ、救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけでした。

いきなり、敵にぶつかっていきました。そして、あの大きな羽で、力いっぱい相手をなぐりつけました。

不意を打たれて、さすがのハヤブサも、空中でふらふらとよろめきました。が、ハヤブサも、さるものです。さつと体勢を整えると、残雪のむな元に飛び込みました。

ぱつ

ぱつ

羽が、白い花卉のように、すんだ空に飛び散りました。

そのまま、ハヤブサと残雪は、もつれ合って、ぬま地に落ちていきました。

《新しい漢字 読みかえの漢字》

ふたた

再び

テキ

敵

セイ

体勢

ととの

整える

ベジ

花卉

《言葉の意味》

② あかつき

夜明け。明け方。



残雪が守りたかったのはだれですか。だれから守りたかったのですか。仲間のガン（大造じいさんのおとりのガン）ハヤブサから守りたかった。

大造じいさんはかけつけました。

二羽の鳥は、なおも地上ではげしく戦っていました。が、ハヤブサは、人間のすがたをみとめると、急に戦いをやめて、よろめきながら飛び去っていききました。

残雪は、むねの辺りをくれないにそめて、ぐったりとしていました。しかし、第二のおそろしい敵が近づいたのを感じると、残りの力をふりしぼって、ぐっと長い首を持ち上げました。そして、じいさんを正面からにらみつけました。

それは、鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようでありました。

大造じいさんが手をのばしても、残雪は、もうじたばたさわぎま senでした、それは、最期の時を感じて、せめて頭領としてのいげんをきず付けまいと努力しているようでもありました。

大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対しているような気がしませんでした。



《言葉の意味》

②③ くれない あざやかな赤色。

②④ 最期 命がおわるとき。

②⑤ いげん りっぱで重々しい感じ。いかめしい感じ。おごそかさ。

第二のおそろしい敵とはだれのことですか。

大造じいさん

大造じいさんは何に、心を打たれたのですか。

残りの力をふりしぼって、首を持ち上げ正面からにらみつけた、頭領らしい態度。じたばたさわがず、頭領としてのいげんをきずきず付けまいとどりよくしている様子。

残雪は大造じいさんのおりの中で、ひと冬をこしました。春になると、そのむねのきずも治り、体力も元のようにになりました。ある晴れた春の朝でした。

じいさんは、おりのふたをいつぱいに開けてやりました。

残雪は、あの長い首をかたむけて、とつ然に広がった世界におどろいたようでありました。が、バシッ。

快い羽音一番、一直線に空に飛び上がりました。

らんまんときいたスモモの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました。

「おうい、ガンの英ゆうよ。おまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきようなやり方でやっつけたかあないぞ。なあ、おい。今年の冬も、仲間を連れてぬま地にやって来いよ。そうして、おれたちは、また堂々と戦おうじゃあないか。」

大造じいさんは、花の下に立って、こう大きな声でガンによびかけました。そうして、残雪が北へ北へと飛び去っていくのを、晴れ晴れとした顔つきで見守っていました。

いつまでも、いつまでも、見守っていました。

《読みかえの漢字》

こころよ
快い

きよ
清らか

《言葉の意味》

②6 らんまん

花が美しくさいているようす。

大造じいさんはいつ残雪が入っているおりを開けましたか。

ひと冬こした春の、朝。

大造じいさんはなぜ、残雪を逃がしてあげたのですか。

残雪のようにえらいやつを、ひきようなやり方でやっつけたくなかったから。堂々と戦いたかったから。



次の言葉の意味をたしかめましょう

- ① かりゆうど 鳥・けものを取ることを仕事にしている人。
- ② いろり ゆかを、はこの形に切って火を入れ、だんぼう・すいじに使うところ。
- ③ 自在かぎ いろりの上から下げ、なべやかまをかけてつるす道具。
- ④ 頭領 群れの中のかしら。
- ⑤ いまいましく はらだたしく。
- ⑥ かねて 前から。
- ⑦ たたみ糸 たたみをぬうのに使う太い糸。
- ⑧ たかが せいぜい。わずかに。たった。
- ⑨ 感たん 感心してほめること。
- ⑩ たいした たいそうな。すばらしい。
- ⑪ あんばい ものごとの具合。
- ⑫ 会心 満足すること。気に入ること。
- ⑬ ねぐら 鳥の寝るところ。
- ⑭ 目にも物見せる ひどい目にあわせて、思い知らせる。
- ⑮ 引きしまる きんちようする。
- ⑯ 油断 気をゆるめること。注意しないこと。
- ⑰ 計略 はかりごと。相手をだますわな。
- ⑱ おとり 鳥などをさそいよせるために使う、なかまの鳥。
- ⑲ ひとあわふかせる 人をおどろかせて、あわてさせる。
- ⑳ くらます 人にわからないように、ごまかす。
- ㉑ 本能 人や動物が生まれたときから持っている、働き・性質。
- ㉒ あかつき 夜明け。明け方。
- ㉓ くない あざやかな赤色。
- ㉔ 最期 命がおわるとき。
- ㉕ いげん りっぱで重々しい感じ。いかめしい感じ。おごそかさ。
- ㉖ らんまん 花が美しくさいているようす。

新しい漢字

書いて覚えましょう

愉快 ゆカイ
快 快 快 快 快 快

率 ひき
率 いる

率 率 率 率 率 率 率 率 率 率

頭領 リョウ

領 領 領 領 領 領 領 領 領 領

指導 ドウ
領 領 領

導 導 導 導 導 導 導 導 導 導
道 道 道 導

五俵 ヒョウ

俵 俵 俵 俵 俵 俵 俵 俵 俵

慣 な
慣れる

慣 慣 慣 慣 慣 慣 慣 慣 慣 慣
慣 慣 慣

新しい漢字

読み方をノートに書きましょう。

愉快

率いる

頭領

指導

五俵

慣れる

独り言

飼い慣らす

敵

花卉

記述

新しい漢字

答え合せをしましょう。

愉快

ゆかい

率いる

ひきいる

頭領

とうりよう

指導

しどう

五俵

ごひよう

慣れる

なれる

独り言

ひとりごと

飼い慣らす

かいならす

敵

てき

花卉

かべん

記述

きじゆつ

新しい読み方／特別な読み方の漢字

読み方をノートに書きましよう。

夢中

大群

昨日

鳥類

案の定

開始

真つ赤

導かれる

再び

体勢

整える

快い

清らか

移る

新しい読み方の漢字

答え合せをしましょう。

夢中

むちゆう

大群

たいぐん

昨日

きのう

鳥類

ちようるい

案の定

あんのじよう

開始

かいし

真っ赤

まっか

導かれる

みちびかれる

再び

ふたたび

体勢

たいせい

整える

ととのえる

快い

こころよい

清らか

きよらか

宿題

次回の授業までにやる勉強です。

1. 漢字

今日の授業で書いた漢字の練習をしましょう。

2. 音読 「大造じいさんとガン」を読みましょう。

3. 前書きを読んでまとめましょう。

① 登場人物を書きましよう。

② 大造じいさんについてまとめましよう。



お知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
 2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNCClass.com です。
 - ❖ このビデオのスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から
ダウンロードや印刷ができます。



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

五年生

年間学習表



身につけたい力

| 7月 | 6月 | 5月 | 4月 | | |
|--|---|---|--|---|--------------|
| | | <p>新聞記事から 新聞記事の見出しの 違いについて考えた ことを発表しよう。</p> | <p>自分の意見を持つとう 自分の意見を発表し よう。話し手の意図 を聞き取ろう。</p> | <p>1年間の学習を通し て 先生の話を聞き、学 習を進めよう。</p> | <p>話す／聞く</p> |
| <p>こんな道があつたら 町の様子を観察し、 気が付いたことや 思ったことを書こう。</p> | <p>大陸は動く 前半と後半に分けて、 書いてあることを短 くまとめよう。</p> | <p>新聞記事から 新聞記事を短くまと めよう。(要約しよ う。)</p> <p>詩を楽しもう 見たり感じたりした ことをもとに、心の つぶやきを言葉にし よう。</p> | <p>やどかり探検隊 物語を読んで、感じ たことや考えたこと を書こう。</p> <p>記録しよう 心に残ったことを、 書留めよう。</p> | <p>新聞記事 記事の要約をし、記 事に対する自分の意 見を書こう。</p> | <p>書く</p> |
| <p>麦畑 情景を思いうかべな がら読もう。登場人 物の心情と情景が一 体のものでえがかれ ていることを読み取 ろう。</p> | <p>地図が見せる世界 筆者が最も言いたい ことは、どういうこ とだろう。</p> <p>大陸は動く 筆者はどんな考えで、 「大陸は動く」とい う題名をつけたのだ ろう。</p> | <p>詩を楽しもう 文語の詩を読もう。 「自分」の伝え方に ついて考えよう。</p> | <p>やどかり探検隊 主人公の気持ちかを考 え、自分と重ね合わ せて読もう。</p> | <p>新聞記事 記事の内容を読み取 ろう。</p> | <p>読む</p> |
| <p>仮名づかいの決まり 発音と違う書き方を する、言葉について 知ろう。</p> | <p>つなぎ言葉 つなぎ言葉の働きを 知り、つなぎ言葉を 使えるようになるう。</p> | <p>同じ音の漢字 同じ音を持つ漢字そ れぞれの意味と使い 方を知ろう。</p> | | | <p>言葉</p> |

| 12月 | 11月 | 10月 | 9月 | 8月 | |
|---|--|---|---|---|-------|
| 目的を考えた話し合おう 目的にそった、有意義な話し合いにするための方法を知ろう。 | | | | | 話す／聞く |
| わらぐつの中の神 自分の身近な物について、それがどういうものかが読む人にわかるように書こう。 | 調査したことをまとめよう 調査したいことを決めて、調べたことを作文に書こう。 | 大造じいさんとガン 大造じいさんの気持ちの移り変わりをまとめよう。 | 身近な環境 身近な環境について調べ、わたしたちができることは何か書こう。 | 読書記録 読書記録の書き方を知り、自分の同署記録を書こう。 おみやげ 宇宙人の宿題 「宇宙人」「戦争」「現代文明」について思ったこと、考えたことを書こう。 | 書く |
| わらぐつの中の神様 おばあちゃんの思い出話と、その前後の現在の話を配した構成を理解しよう。 | 「その人」と出会って 筆者が手話を通して心を通わせた経験と、それにもとづいた感動を読み取ろう。 | 大造じいさんとガン 情景を思いうかべながら読もう。 | 一秒が一年をこわす わたしたちの周りで実際に起きている問題を考えよう。 | おみやげ 宇宙人の宿題 宇宙人に目を向けた二つの作品を読み比べよう。 | 読む |
| | 熟語を使って 熟語の読み方と意味を知ろう。 | 敬語 正しい敬語の使い方を知らう。日常生活で使っている敬語をまとめよう。 | 漢語と和語 漢語と和語について知り、意味の違いを調べよう。 | 漢字のなりたち 今わたしたち使っている漢字が、どのように作られたのか知ろう。 | 言葉 |

| | 3月 | 2月 | 1月 | |
|---------------------------------|---|--|---|-------|
| | 朗読をしよう 一年間 学習 した物語の中で、 一番好きな作品の 朗読をしよう。 | | | 話す／聞く |
| | 月夜のみみずく 作品全体から感じ たこと、場面ごと の印象を書こう。 | リレー物語を作ろう もらった物語の続 きを書こう。 推敲をしよう 書いた作文を、よ り良い文章になる ように推敲しよう。 | 言葉と気持ち 自分の気持ちや意 図を相手に伝える 短い文を書こう。 | 書く |
| | 月夜のみみずく 「わたし」が「と うさん」と森に 入った初めての経 験、雪の森の中で 見た世界を想像し よう。 | 詩の広場 うれしいときや悲 しいとき、わたし たちの心は何を感 じ、目にはどんな 風景がうつってい るのか、考えよう。 | 言葉と気持ち 三つの事例を通し て、筆者は何を うったえようとし たのか考えよう。 | 読む |
| 五年生の漢字 五年生で習った漢 字の復習をしよう。 | | 言葉の組み立て 複合語の意味、ど んなふうにするの か考えよう。 | 漢字の読み方と使い 方 言葉によって読み 方が変わる漢字を 知り、正しく使え るようになるよう。 | 言葉 |